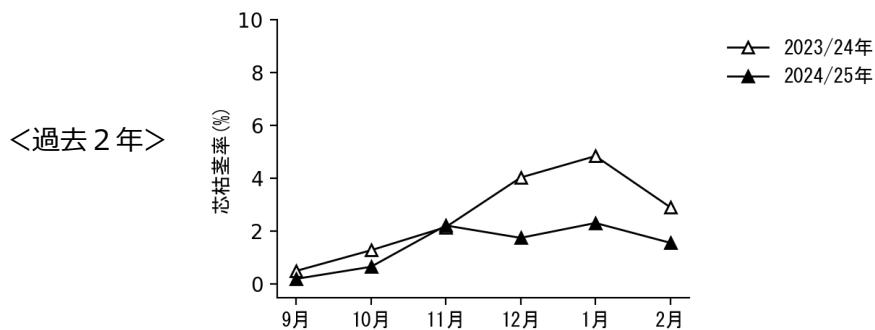
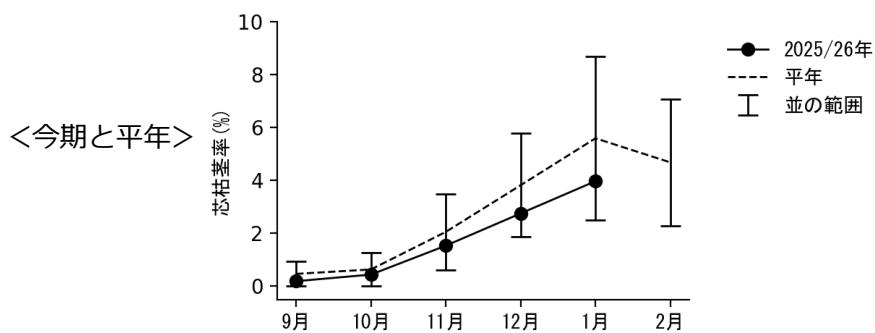


作物	さとうきび		地域	沖縄群島
病害虫名	(1) メイチュウ類 (カンシャシンクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	1 月からの増減傾向	↓		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果

芯枯茎率の推移 (夏植え)



- ・発生種：イネヨトウ (61%)、カンシャシンクイハマキ (39%)
- ・発生ほ場率87.5% (平年：92.6%)
- ・南大東島：多発生 (病害虫防除員報告)

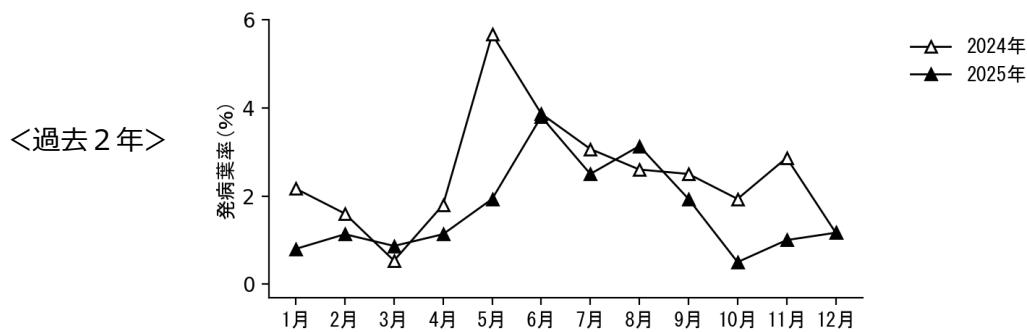
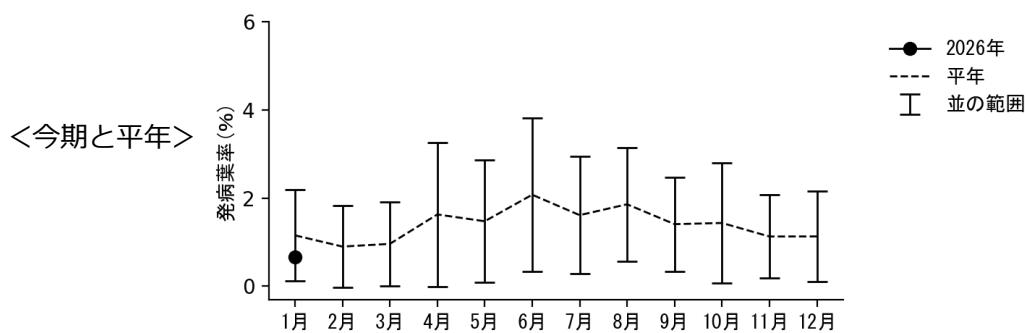
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根茎から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤等の散布は、葉鞘と茎のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	かんきつ (温州みかん)	地域	沖縄群島
病害虫名	そうか病		
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並	
予報	1 月からの増減傾向	↓	
予報の根拠	2 月の発生量 (平年比) 並		

調査結果

発病葉率の推移



- ・葉の発病度0.1 (平年0.3)
- ・発生場率100% (平年: 54.2%)

防除のポイント

- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

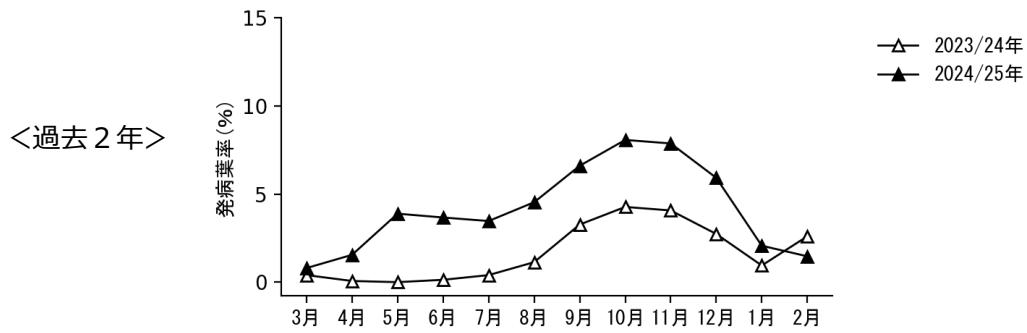
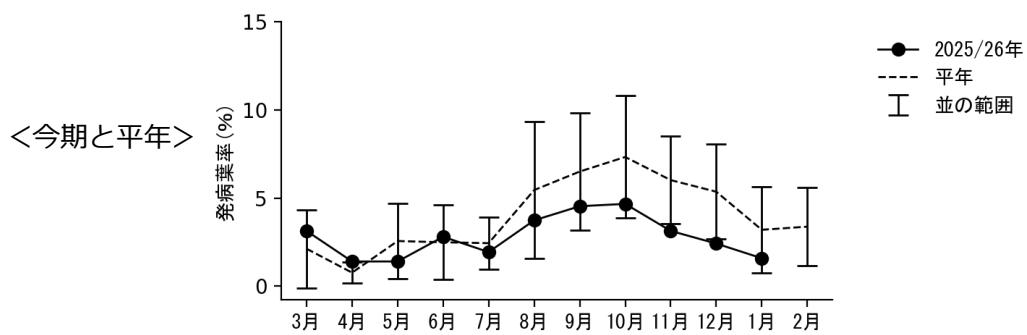
被害果→



作物	かんきつ (タンカン)		地域	沖縄群島
病害虫名	① かいよう病			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移



- ・葉の発病度0.3 (平年0.8)
- ・発生ほ場率100% (平年: 74.5%)

防除のポイント

- ・本病はミカンハモグリガによる食害痕から侵入しやすい。
- ・罹病葉・枝は伝染源になるので除去する。

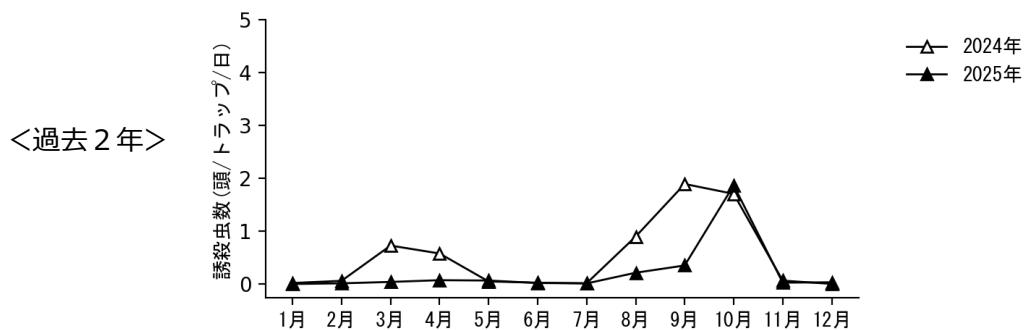
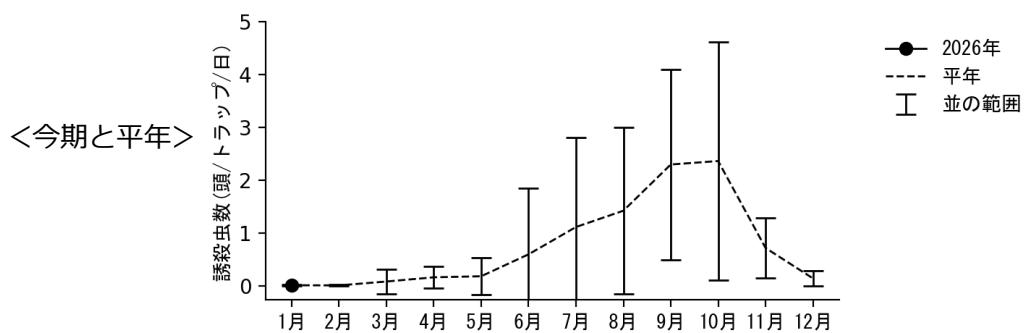


被害葉→

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	1 月からの増減傾向	→		
2 月の発生量 (平年比)		並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率50.0% (平年: 72.5%)

防除のポイント

- 開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
- コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- 不要な新梢は、施設外に除去する。
- 開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

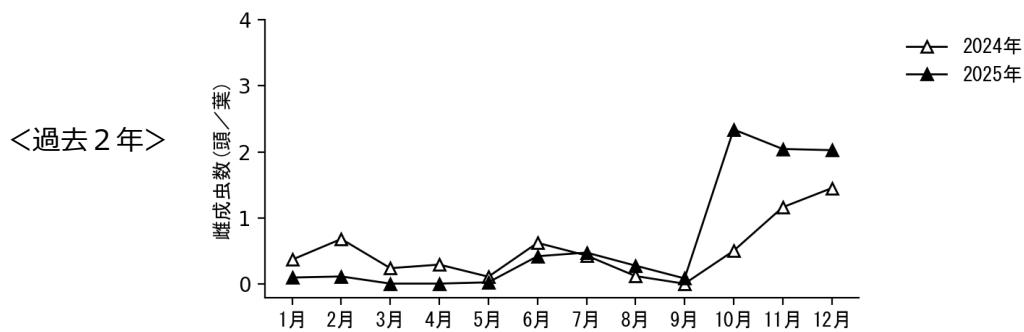
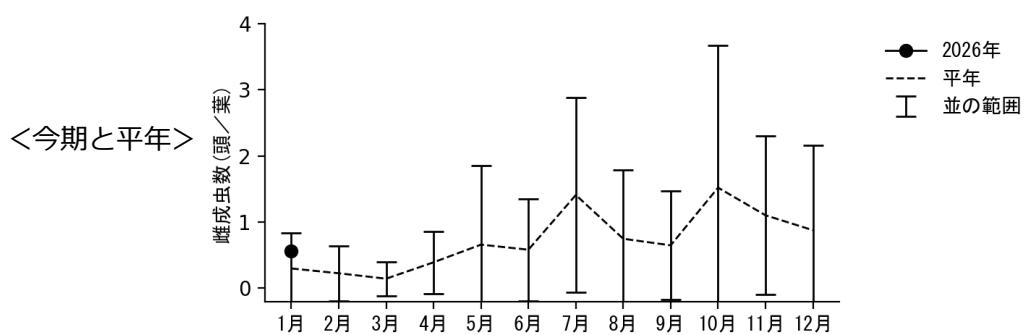


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー		地域	沖縄群島
病害虫名	(1) ハダニ類			
調査結果	1 月の発生量 (平年比)	並		
予報	1 月からの増減傾向	→		
	2 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率33.3% (平年：27.6%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・冬季はマシン油乳剤による防除が効果的である。本薬剤は天敵に影響が少なく、天敵を保護しながらの防除が期待できる。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状



マンゴーツメハダニ